

令和3年度 第1回八尾市芸術文化振興審議会

日 時：令和3年5月28日（金） 午後6時～午後8時

開催場所：八尾市商工会議所3階 多目的室・セミナールーム／オンライン（OL）

委員：藤野（会長）、木ノ下（副会長）、大嶋、辰巳、大内、大久保、鈴木、鷹津（OL）、高安、中尾、仁科（OL）、野村（OL）、萩原、羽月、細合、宮本
※敬称略

事務局：大松市長

【魅力創造部】新堂部長、沼次長

（文化・スポーツ振興課）川添課長、出水課長補佐、時田係長、川下主査
（観光・文化財課）南課長、（産業政策課）後藤課長

【教育委員会事務局】（生涯学習課）松田課長

【文化振興事業団】北芝、中神

【地域計画建築研究所】江藤、飯塚

傍聴者：1名

1. 開会

事務局より配布資料の確認。

2. 市長挨拶

市長○本日は大変お忙しい中、また日中お疲れの中、ご参集いただき感謝している。また、委員をお引き受けいただき、重ねて感謝申し上げます。

本年2月に第6次総合計画を策定し、将来都市像の実現に向けた一つの施策として、「芸術文化を活かした豊かなまちづくり」を掲げている。また、今年度の市政運営方針にも重点取組として進めることを明記した。そうした中で芸術文化振興に関する条例と推進計画の策定についてご協議いただく。これまでも本市の芸術文化に多大なご尽力をいただいているが、さらに力強く前に進めていくためにも、条例を含め忌憚ないご意見をいただきたい。コロナ禍で大変な状況ではあるが、八尾市の芸術文化の発展に取り組みたい。

3. 委員委嘱

事務局より委嘱状について説明。

事務局より委員、事務局の紹介。

4. 会長・副会長の選出

事務局一任として、藤野会長、木ノ下副会長を選出。

5. 諮問

市長より会長へ諮問。市長退席。

これより議事の進行を藤野会長に依頼する。

会長○これより私が議事を進行させていただく。

諮問事項は2項目ある。1つは条例の骨子、2つめは次期プラン案。この1年で両方策定する。八尾の芸術文化の振興について、それぞれの立場より、広い視野で八尾市を客観的に捉えていただき、活発な意見交換により審議をお願いしたい。

また、本日の審議会ですが、委員総数 16 名の過半数の方にご出席頂いており、八尾市芸術文化振興審議会規則第 6 条第 2 項の規定により、会議が成立していることをご報告する。

本題に入る前に、会議の公開について、事務局から説明をしていただく。

事務局より、**資料 2-1**の説明。

- 会議の公開に関する指針 3、4 により、審議会等の会議は原則公開。
- 会議録の各発言に対する委員の氏名は、会長、副会長、その他の委員の皆様についてはアルファベットで A 委員、B 委員等とし、内容は概要とする。

会 長○会議の公開について、ご意見、ご質問はないか。なければ原則公開とする。

6. 条例制定・計画策定の全体像について

事務局より**資料 3**の説明。

➤ 条例制定・計画策定の全体像

- 平成 10（1998）年の「八尾市文化振興ビジョン」から、平成 23（2011）年の「第 2 次八尾市芸術文化振興プラン」の策定に至る。
- 昨年度は八尾市芸術文化振興プラン推進市民会議において、第 2 次八尾市芸術文化振興プラン総括書を作成。
- これらの経過を踏まえ、今年度より八尾市芸術文化振興審議会を設置し、芸術文化振興に関する条例の制定に取り組み、条例に基づいた次期プランの策定を行う。

➤ 条例・計画の主な体系

- 条例で基本施策として取り組む内容について規定し、計画で具体的な施策・事業を記載し反映させていくことになる。

➤ 「芸術文化」の定義について

- これまで芸術文化施策の推進において使用してきた「芸術文化」の文言を、今後も使用することを、昨年度の市民会議で決定。

➤ 条例と次期プランで取り扱う範囲について

- 現行プランでは「生活文化」などを範囲外としていた。
- 「生活文化」を記載していた生涯学習計画が、八尾市教育振興基本計画に統合され記載が縮小されたこともあり、今後は「芸術文化」として取り扱う範囲として、「生活文化」と「国民娯楽及び出版物」を加えたい。
- 文化財に関しては八尾市文化財保護条例があり、今年度「八尾市文化財保存活用地域計画」を策定する予定。
- 活動の初期段階である学習や練習を「生涯学習」で、活動発展期の発表や鑑賞の段階を「芸術文化」と整理し、今年度制定する芸術文化に関する条例及び次期プランの対象としたい。
- また、機構改革により、魅力創造部として、芸術文化とあわせてスポーツの振興を図ることとなったため、芸術的要素を備えるスポーツを含めることとしたい。

➤ 本審議会の体制について

- 【資料 1】の八尾市芸術文化振興審議会規則もあわせて確認。
- 本審議会において、条例・計画を審議いただく。
- また、審議会にはワーキング部会を置き、ワーキング部会でまとめた内容について、審議会で意見交換をしていただく形を取らせていただく。
- ワーキング部会では、より広く意見を求めるために、委員以外の市民が参加する拡大版としてのワークショップを、2 回程度開催する予定。

➤ 今年度のスケジュールについて

- 本審議会では、条例の骨子と次期プラン案についてご審議いただく、非常にタイトなスケジュールとなっている。
- 先に条例の制定に取り組み、並行して計画策定にも取り組む。

- 6月11日に第1回のワーキング部会、6月26日には拡大版としてワークショップを開催する予定。
- 第2回審議会については7月26日（月）18時を予定し、6月部会の報告をする。
- また、並行して芸術文化団体等へのヒアリング調査を実施。
- 8月上旬に第3回目のワーキング部会を予定。
- 第3回審議会は8月20日（金）18時を予定しており、この回で条例骨子の答申をまとめ、答申に基づいて事務局で条例案をまとめ、9月にパブリックコメントを実施、その後ご意見への対応を行い、10月に庁内で議案として条例案を提出、12月議会に提案する。
- 計画は事務局で条例と並行して進め、第3回の部会、審議会から審議に入り、最終案を答申していただく予定。

➤ ワークショップについて

- 6月26日（土）の午後に、リノアスにある「みせるばやお」で開催予定。
- アートNPO「ココルルーム」の上田假奈代さんにご講演いただく。
- ワーキング部会委員以外の委員の皆様には、オブザーバーとしてご参加していただくことが可能。最終版のチラシができれば送付させていただきます。

会 長○説明にあったワーキング部会の委員は、会長から指名させていただくことになっており、審議会より3名と私の4名と、臨時委員の2名にお願いします。部会長は引き続き私が務めさせていただきます。

今の説明について、意見、質問はないか。タイトなスケジュールだが、委員の皆様には日程調整をお願いしたい。

7. 第2次八尾市芸術文化振興プラン総括書（課題・提案の概要）について

事務局より資料4の説明

➤ 第2次プランの総括書について

- 「目的1 市民が生き活きとする」についての課題と提案
- 「目的2 豊かな社会を築く」についての課題と提案
- 「目的3 魅力的なまちをつくる」についての課題と提案
- プランを推進するにあたって課題と提案
- 社会動向、アンケート結果、事業評価の概要

会 長○次第7について、ご意見、ご質問はないか。盛りだくさんであり、すぐには理解できないかもしれないが、昨年1年間の成果ということになる。

8. 文化振興に関する条例 他自治体の事例

事務局より資料5の説明

➤ 他自治体の事例について

- 大阪府下の43市町村市のうち13団体で文化振興に関する条例を制定している。そのうち9市と他県の3市と福岡県の事例を参考にしている。
- 項目ごとに各市の特徴がある部分については太字と下線を引いている。
- 6月11日に開催する第1回ワーキング部会において、本市の条例に必要な内容について検討する予定。
- 6月26日に開催するワークショップでは市民の意見を聞いて参考にする。

会 長○資料5はこれだけ見ても理解が難しいと思うが、この1年間で噛み砕いて説明し議論したいと考えており、現時点では理解できなくても構わない。

昨年度の市民会議では、私が関わってきた文化振興条例や基本計画を整理して講演させていただいた。大きく分けて3つのタイプがあることがわかった。1つは完璧なタイプで、条例と計画、そして審議会があるところだ。2つめのタイプBとしては、条例と計画はあるが、推進体制である審議会がないところがある。タイプCは計画と審議会はあるが、条例がないところだ。現行の八尾

市はタイプCに該当する。条例がプラスされると完璧になる。さらにタイプDとしては、計画のみがあり、進行管理等は行っていないところもある。

そもそも文化振興の条例や計画は行政の義務ではない。法定外自治事務と言うが、自主的につくることになる。今回、諮問を受けたように、市の意志として作りたいという提案をいただいた訳だが、私達はそれを受けて自主的に検討するものだ。

資料5を見ていただくと、審議会等の推進体制がない自治体もある。条例や計画を策定しても、これでは不完全だ。そのあたりもポイントとして押さえていただきたい。

9. フリーディスカッション

会長○事前に事務局よりお知らせしているが、はじめに委員の皆様の日頃の芸術文化との関わりや活動、審議会に臨むにあたっての想い等について1分半～2分程度で、名簿順にお話いただきたい

会長○まず直近の経験について話したい。昨年度一年間は八尾市の市民会議に参加し、八尾市の伝統や芸術文化、風土、景観に触れることが出来た。フィールドワークでも大変お世話になり、ここに来るとワクワクする。

この3月までは32年間、神戸大学の教員をしていたが、縁があり兵庫県の豊岡市に移った。兵庫県が新しく豊岡市に芸術文化観光専門職大学をつくり、その副学長に就任した。しかし、演劇やダンスを中心に豊岡市のまちづくりを進めてきた市長が、まさかの落選となった。公立大学では初めて演劇やダンスの実技を学ぶことができる大学となったため、北海道から沖縄までほぼ全県から学生が集まったが、その直後にそれを推進してきた市長が落選し、大変ショックを受けた。コンセプトは間違っていないと思うが、現場にいて怖いのは、トップダウンで行うこと不安定さがある。6～7年の短期間で演劇によるまちづくりに取り組んできたが、市民感情に浸透しておらず、理解を得られていなかったことが、今回の選挙に現れた。私も豊岡市の文化芸術振興計画の取りまとめや、新文化会館の検討に関わってきたが、そこの委員会で市民の意見をたくさんいただいたものの、市が進めようと考えていたことは少しレベルが高くて、小さな世界都市など、突き抜けたことだった。市長も突き抜けたことをしなければ少子高齢化は解決できないと言っていた。深みのある、突き抜けるといのが、前市長の口癖だったが、それが市民感情としては理解されなかった。問題点としては、芸術文化政策は地方自治政策として重要だが、トップダウンも重要だが、ボトムアップとトップダウンがうまく手を結んで組み上げていかなければ不安定になり、グラグラすることがわかった。

八尾市に関しては、市民会議という良い組織があり、その力を借りて基本計画も策定され、プリズムホールの運営にも反映されていた。トップダウンとボトムアップがうまく結び合っていたのではないかと、豊岡市と比較して感じた。

今回は行政計画を作り直し、その根拠となるような条例を制定する。一見するとトップダウンだが、市民からしても渡りに船の状況だ。今回、市民会議から審議会へバージョンアップしたが、委員のメンバー構成について市と相談し、芸術文化関係者だけではなく、企業やメディア、福祉関係など、様々な分野の方に入っていたいただきたいと言ってきた。また、ジェネレーションの問題、多くの審議会では60歳代以降に偏りがちで、次世代の意見を吸収できず、次世代につないでいけないという問題を感じてきた。さらにジェンダーギャップの解消もあった。分野、ジェネレーション、ジェンダーのバランスを調和させることが、審議会運営にとって重要だ。本日、お集まりの方々の顔ぶれを見ていただくとわかるが、理想的な構成になり大きな期待を抱いている。何卒協力をお願いしたい。

副会長○八尾市との関係については、前段の市民会議や、プリズムホールの指定管理の委員を務めており、複数年に渡って関わっている。ただし、在住でも勤務地でもなく、日々関わっている訳ではない。そういった意味では、社会の様々な視点で八尾市の立ち位置を確認することも、私の役割だと思っている。

1990年代の阪神大震災後に設立された、神戸市のアートビレッジセンターでオープニングスタッフとして、また大阪大学の新しいセンターの立ち上げにも教員として関わっている。大阪大学では、大学の気風と少し違う文化や、大学院での教養科目として関わってきたが、平田オリザさんは当時の上司でもあったが、哲学者であり初めての文学部系総長となった鷺田清一さんに呼ばれ、大

阪大学をフィールドにアートの役割をどのように拡張できるのかということにミッションにして授業に携わった。そのひとつが、大阪の中之島における都市開発にあわせた中之島線の鉄道事業において、駅のコンコースの1階に、企業・大学・NPOの3者で共同運営するコミュニティスペース・アートエリアを立ち上げた。社会活動の中に、いかに芸術文化や知の拠点をつくっていくかについて、立ち上げ、コンセプト、運営スキームから携わってきた。昨年度からは中之島全体について、点であった拠点から、中之島を含めて14機関が連携するクリエイティブ・アイランド中之島として、世界に中之島の魅力を発信する事業を始めた。現在はコロナ禍で、プリズムホールはちょうどいい時期に改修工事に入ったが、芸術文化そのものが危機的な状況だ。一方で、心の豊かさは不可欠なものであり、基本的人権のひとつだと思っている。そのような観点においても、この審議会の中で、芸術文化が何を意味するのかを検討し、実効力のある条例としたい。

現在、岡山市や札幌市の国際アートフェスティバルの委員や、他の条例等にも携わっているため、折を見て紹介していきたい。

- A 委員〇生まれも育ちも八尾市だ。普段の活動としては、私は音楽活動がメインだ。音楽と言ってもクラシック音楽であり、ここ6年間は別の市の市民参加型の公演で、楽器演奏と振り付けを担当している。音楽活動がメインとなっているため、コロナ禍で全く公演が出来ていない。その中で改めて、私から音楽を取ったら何が残るかを日々考えていたが、その時にこの委員会の募集を拝見した。

コロナ禍前には海外へひとりで行き、現地のアーティストと音楽祭などに加わってきた経験があり、また海外ではホテル住まいはせず、現地のお家に伺い、2ヶ月以上は滞在して各国を回ってきた。ガイドブックにはない経験と、現地の方の普段の日常の生活リズムを学んできた。現地文化の中での音楽のあり方と、八尾市を振り返った時に、海外の良いところや成功例を素直に取り入れたい。

八尾市のニッポンバラタナゴという絶滅危惧種の魚の保護活動にも参加しているが、そのような活動が芸術とまったく異なるところにあるのではなく、つなげられるところがあると思っている。私のこれまでの経験と、活動からの失敗や成功を審議会の場で発言、提案させてもらえれば、次の条例やプランに活かしていただけるのではないかと考え、参加させていただいた。

- B 委員〇市民委員として参加する。結婚してから八尾市に住んでおり27年目になる。日頃の芸術文化の関わりだが、外に発信するような活動はないが、文章を書くことが小さい頃から好きであり、エッセイを書いて新聞に投稿している。また、高校のときは美術部に所属していたこともあり、絵画鑑賞のため美術館へ行き、日本橋の国立文楽劇場で文楽を見ることも好きであり、それらが私の文化的な関わりだと思っている。

実は平成17年の第1次の芸術文化振興プランの策定に市民委員として参加したが、あれから15年以上が経過しており、八尾市を取り巻く芸術文化の環境も変わっている。今はコロナ禍であり、芸術文化の表現の場にも制約があり厳しい状況だが、条例の検討などで考えを深め、魅力あるまちづくりを考えていきたい。

- C 委員〇八尾市役所北分室のネットワークセンターつどいの運営委託を受けているNPOとして参加している。学生時代にはまちづくりを専攻しており、学外活動として八尾市のまちづくりを行う学生団体を立ち上げや、現在のつどいのスタッフとして働かせてもらい、淡路島などでもまちづくりに関わってきた。小さい頃から絵を書くのが好きであり、イラストやデザインに関わり、現在は天王寺で農家の野菜や果物を販売する直売所に関わり、コップ等のデザインや広報等でも仕事をしている。

芸術に深く関わっている訳ではないが、昨年度から市民会議に参加しており、少しでも力になりたい。

- D 委員〇プリズムホールの指定管理者をしている。これまで芸術文化振興の計画はあったが条例はなく、条例が必要だと考え発言してきた。プリズムホールが開館して30年以上経つが、一気に条例制定が実現することになり、ありがたく思っている。しかも、市民の皆様や様々なフィールドをお持ちの方々と出会え、ご意見を直接聞かせていただけることで、私やスタッフも刺激を受ける。

プリズムホールは年間40本程度の事業と200件前後の公演や講座を実施している。昨年度はコロナ禍でそれが半分になってしまい、市民との交流も難しかったが、大ホールや小ホール、その他の部屋で、公演やワークショップ、市民参加型のイベントなどを行ってきた。コロナ禍では、不要不急なことは自粛であるが、衣食住ほどではないにしても、芸術文化は「必要不断」のものと思っ

ている。必要であり、断つことなく実施しなければ、人間の生活の一部に支障をきたすと考えている。

以前、プリズムホールに来館する市民の皆さんにヒアリングをしたことがある。1人の方はファッションショーに出ていただいた方だが、初めてファッションショーに出て嬉しかったことや、稽古の時に一緒に参加した方々にとっても優しくしてもらったと話され、インタビューなのに泣いておられた。普段は一人暮らしで近所との交流もなく、あまり会話することもなかったが、ファッションショーで皆さんに優しくしてもらい、ランウェイを歩く経験ができたということだった。もうひとりクラシックが好きな男性だが、仕事でかかえたストレスが、家族・友人に相談しても気が晴れないこともあるが、好きなクラシック音楽を聞くと、とにかく心が休まる、次の日のやる気が出ると言われていた。芸術は、友達に相談することとはまた違う、という話も聞かせていただいた。やはり、「必要不断」だと思っている。

今回は、様々な方と交流をしながら、条例や計画の策定をオーソライズされた中で進めることができる。プリズムホールも力不足でやりたいことがうまくいっていない面もあるため、条例の中でそれぞれの役割などが整理され、市民の皆さんと総力を挙げてネットワークを組ませていただき、また舞台がある拠点としても、一緒にできればと思う。

E 委員○プリズムホールは市制40周年に、私どもは50周年のお祝い事の時期に設立されてということで、親近感がある。

八尾コミュニティ放送は23年目に入ったが、私は3年目に入社してからずっと八尾でやってきた。こうのとりで有名な豊岡にもFMジャングルがある。豊岡は先輩局であり交流があるが、豊岡でもコミュニティFMは地域の情報をたくさん持っている。我々も豊岡を目指して、地域情報を大量に集めることに挑戦し、年間取材件数が2,600件を超えたことがある。普通の新聞社と同じレベルまでになった。朝から夜まで1日3~4件の取材を行っていた。そういうことをしていると、まちの文化にも触れ、第三セクターという強みがあり、八尾市の全面バックアップの中で、文化振興の方、スポーツや産業、人権など全てを網羅できたことが我々の強みだ。商業なら商店街、文化ならプリズムホール、人権なら国際交流センター、スポーツは山本球場なども市役所から紹介していただいた。

ラジオを聞いていただくことは少なくなっているが、コロナ禍の中で、昨年度、学校が休校になったとき、小学校や中学校の先生が児童・生徒を励ますため、ラジオを聞いているだろう児童・生徒にメッセージを送ったところ、大きな反響があった。ラジオも文化とともにやっていたら、まだまだ手応えがあると感じた。そうした経験をもとに、今回もご縁があって審議会へ参加したので、私達の情報をフルに使っていただきたい。

F 委員○今年度から委員になった。私は市の音楽教育研究会担当として参加している。小学校や中学校の音楽会で、プリズムホールにはお世話になっている。

学校現場では教育の中で芸術に触れるのは、創作活動や鑑賞活動の機会が多々ある。文化芸術活動の継続支援活動があり、ダンス活動にも取り組んでおり、プロのダンサーに教わる活動も行ったが、今の子どもたちは踊ることが好きで、本物に触れる貴重な機会だった。一方、東住吉高校との交流では、狂言・琴・三味線などの伝統芸能を体験する活動も行い、これまで触れたことがないものに触れ新鮮味を感じていた。

八尾市の小中学校には外国にルーツをもつ子どもたちも多く、異文化交流もしている。そんな子どもたちと関わる中で、総括書の中の「芸術文化を通じて多様な視点や異なる価値観に触れることで、互いの違いを尊重することを学ぶことができる」という部分や、藤野先生の資料にあった「アートにしか出来ないことはなにか、みんな違う表現でいい」というところは、大変共感でき、学校としても大切にしている。このようなことを推し進めていきたい。

G 委員○劇団で俳優をしている。八尾の恩智出身で、中学校の時にプリズムホールの舞台に立ったことがある。10代の頃に芸術文化に触れた八尾やプリズムホールが、自身の根幹にあると思っており、しばらく八尾から離れていたが、30年近くたち、ここに戻ってこられたことは、光栄であり責任の重さを感じている。

中学生の頃に演劇に触れたことから、芸術に興味を持ち、近畿大学文芸学部芸術学科で演劇とダンスを学び、劇団をつくった。そこで10年程度活動し、2011年に演劇活動から発展してドイツへ留学し、公共劇場で働く方の姿や、フリーシーンのアーティストが社会とともに作品を作っていることに影響を受け、振付や演出、地域の方と何かを作りたいと思い、3年間、大阪大学の社会人向けアートマネジメント講座を受講した。今は劇団活動と並行して、公共劇場

の方や NPO 法人の方と一緒に、地域の方との演劇創作、青少年向けのアウトリーチ事業、一般向けの演劇講座や鑑賞後の観劇講座の企画制作なども行っている。また、NPO 法人大阪現代舞台芸術協会という団体で理事をしている。この団体は、阪神淡路大震災を契機として 1997 年に設立された集まりで、現在は京阪神地方の表現者が約 30（団体・個人含む）所属しており、演劇の社会への寄与と環境整備に取り組んでいる。

こうした場は初めてであり、ご指導頂きながらつとめていきたい。

会長○G 委員と知り合ったのは 2011 年のベルリンだ。コロナ禍の中でも、所属されているカンパニーは、オンラインを使った先端的、挑戦的な演劇活動をされており、いつも刺激を受けている。

H 委員○73 歳だが、今回の委嘱期間が令和 5 年までということで、これが人生の集大成になると思っている。

演劇関係は門外漢だが、私の姪が大阪大学で演劇学の先生をしており、青空通信社というチンドン屋さんの友人を呼び授業をしたそうだが、チンドン屋さんの中に神戸大学出身者が 3 名いたそう。芸術文化と難しく考える必要はなく、大衆の中から生まれてくるものだと思っている。大道芸も文化芸能の礎になっていると思っている。

私は文化連盟から参加しているが、文化連盟の中には色々な分野がある。日本舞踊もあるしお茶もあるし、クラシックバレエもある。喜楽亭という落語の寄席もある。八尾の日常の中に教室や劇場がある。日常の中にあるのが芸術であり芸能だ。私は八尾市謡曲協会として文化連盟に参加しているが、仕舞もやっている。高尚な趣味としてやっている人もいるが、大衆から生まれた芸能であることをわかっていただきたい。八尾にはたくさんの能舞台があった。そこに集まって謡の会もやっていた。元々八尾には謡の会が 20~30 程度あったが、私が所属する会だけになってしまった。

様々な芸能の人が集まり、八尾市文化芸術芸能祭を開催してきたが、最近はや行きが怪しくなった。文化芸術芸能祭は市民が参加し、市民が見に来るものだ。昨年度はコロナ禍で開催できず、今年は開催する方向だったが、コロナ禍で中止する。来年、再来年は皆さんのご支援をいただいて、発展させていきたい。様々な資料を見たが、「文化芸術芸能祭」が一言も出てこなかったことが寂しい。

I 委員○4 月から校長として勤務しているが、昨年 12 月までは八尾市役所で勤務していた。

校長として芸術文化へ関わるとなると、教育活動の中での関わりになる。音楽、図画工作、書道を中心に、鑑賞や表現活動などで子どもたちの学びを支えている。山本小学校でも今年度は文化庁の予算を使い、プロのダンサーの活動、障がい者理解教育を兼ねた車椅子ダンスの鑑賞を子どもたちに届ける予定だ。本審議会では、子どもたちの芸術教育に資するように、微力ながら取り組んでいきたい。

会長○教育との連携も強化したいと考えている。

J 委員○八尾南駅の近くで金平糖をメインに製造している会社を経営し、ミュージアムも運営している。コロナ禍では「密を避けて、蜜をかけて金平糖を作ろう！」をキャッチフレーズに体験教室にシフトチェンジしている。

個人的には小さい頃からピアノや歌が好きで、作詞作曲を自分でするなどしていた。商品開発などをする時に、そうした活動は無駄ではなく、すべてつながっていると感じている。昨年、NHK のええとこの取材があったが、金平糖は八尾の宝石みたいだと紹介いただき、金平糖は食べるだけでなく、見せ方が大事であり、芸術作品だと思っている。海外客への PR は、ゆるきゃらや漫画が重要である。社内でも使用しており、SNS の活用や外国人の採用など、ダイバーシティも重視している。

今取り組んでいる経営プロモーション活動の中で培ったノウハウを、今回の審議会の中で提供できればと思っている。

会長○芸術文化と産業・企業のつながりは見えにくいですが、産業界からの参加に期待している。

K 委員○恩智に住んでいる。昨年度に引き続きよろしくお願ひしたい。

登録有形文化財萩原家住宅で茶吉庵を運営し、3 年目になる。会社名は合同会社茶屋吉兵衛とし、会社をつくった。江戸時代に河内木綿問屋を営んでいた時の屋号で、代々、茶屋吉兵衛を襲名していたため、茶屋吉兵衛とした。恩智に住んで 400 年、私で 19 代目ということで、ずっと八尾に住んでいると八尾に愛着があり、山の麓を「やまんねき」というが、「やまんねき」を中心に八尾を盛り上げていきたいと思っている。

茶吉庵は両親が住みながら開放する、住み開きという形で、母屋の一部や倉等を開放している。コンセプトは3つある。ひとつはほんまもんにこだわること。本気であることとか、本物の日本文化などにこだわることだ。2つめは集い憩いつながる空間であること。江戸時代から様々な人が集い楽しんでいたため、それを現代に蘇らせたい。紐の結び目のような場にしたい。3つめはアーティストを応援したい。昔の古文書にも、当時から多くの文壇や絵描きの方が逗留し、立ち寄っていた記録があるため、これを現代に蘇らせてアーティストと一緒にやっていきたい。この3つのテーマを持って再生を進めている。

本日は遅参したが、本日まで一年で一番大きなイベントのジャパンあるていすと展があり、他のギャラリーや画材メーカーの方などにスポンサーになっていただき、最後の表彰式があった。片付けてから来たため、大変失礼した。

茶吉庵の運営を始めて3年目、何とか地域の拠点になりたいと思いながら進めている。主にやっているのは落語会で、桂福団治さんという古典落語の大家の方と一緒にやっている茶吉寄席という落語会をやっている。大阪フィルハーモニー交響楽団さんから弦楽四重奏をお招きして、カルテットロソソの皆さんによる音楽会、八尾にお住いの将棋棋士、大石7段に審判長になっていただいた将棋大会など。それぞれの会は落語会なら繁盛亭、音楽界は大阪フィルハーモニー交響楽団、将棋会は将棋連盟に公認をいただき、ほんまもんにこだわり、かつ気軽に楽しんでいただけるよう、音楽会ではワインを飲みながら聴いていただき、目の前で300年前のヴァイオリンを弾いていただいている。落語もすぐそばに高座がある。ほんまもんを気軽に楽しんでいただける空間づくりをしていきたい。

ギャラリーでは月1回、1週間の展示会を行っているが、大阪のギャラリー界では名が通るように活動しており、今回のジャパンあるていすと展では78作品が揃い、コロナ禍でも全国各地から出品いただき、投票していただいた。今までは来場者投票だけだったが、コロナ禍でオンライン投票を取り入れ、遠方の方も投稿できるということで好評だった。コロナ禍でも工夫すると、芸術文化に参加される方も増やせることがわかった。実は来場者は400名で、オンラインでは2倍以上の方に投票していただいた。ひとり3票の投票によって、グランプリから10位までを決定した。

昨年から市民会議に参加し、地域のひとつの民間文化施設として発言させてもらっているが、八尾は歴史や中小企業のまちであり、それが色濃く出ている。芸術文化だけではなく、歴史やお寺、神社、有名なお祭りもあるが縮小傾向がある。これらも芸術文化だ。みせるばやおを中心に、多数の中小・零細企業が頑張っている。こういう力を結集させると、八尾らしい発信ができるのではないか。市の組織改革があり、産業振興部局も近くにあるとのことで、芸術文化と産業、学校とも連携していけば良い取組ができるのではないか。文化条例にもそうしたことを盛り込み、八尾らしさ前面に出していきたい。

会長○アカデミックな用語で、よく市民的公共性や文化的コモンズということ語るが、その概念を実践されているのでイメージが湧く。市民的公共性がどのようなものか、文化的コモンズをどうやってつくっていくのかなど、先駆的事例を示していただいております、大変ありがたい。

L委員○普段はフリーランスでデザインの仕事をしており、私自身も絵を書き、バルーンアートもやっており、イベントへの参加や展示などの活動を行っている。

八尾にアール・ブリュットを広める会は、2015年に初めてプリズムホールで企画した「ありのまま・あるがまま展」の準備の頃から参加させていただき、その時に就労継続支援B型の作業所に芸術支援でサポートをして欲しいとの依頼があり、初めてアール・ブリュットという形で障がいを持っている方の作品に触れて支援活動を始めた。会自体は八尾市にある就労支援施設の職員有志の集まりとしてできていたため、何をしたいのかわからない状況だった。そこで、アートディレクターを招いて一緒に学び、支援方法や見方を変えると、単なる落書きだったものが芸術作品だと気付き、私にもできる支援があることにも気付いて、今も継続して参加している。企画づくりより、展示会での作品選定や会場図の作成など、実働部隊として関わることが多い。

私もお気に入りのギャラリーがあり、見に行くとワクワクする。芸術に触れることの楽しさや心の豊かさなどの良さを感じており、お役に立てることや学ばせていただくことがあればと思っている。

会長○現在の日本の文化政策のトレンドとして、共生社会や社会的包摂は大変重要な要素だ。

M委員○八尾フィルハーモニー交響楽団の代表として参加しているが、アマチュア団体であり、クラシック音楽を中心にやっており、ポップスや歌謡曲を敵に回して活動

している。アマチュアのオーケストラプレイヤーが一番たちが悪いと自覚している。プロはお金をもらって演奏しているため謙虚だが、アマチュアは自ら年間8～9万円のお金を払って好きなことをしており、我儘を謳歌し、さらに褒めて欲しいと思っている。わがままなアマチュア団体の代表が、審議会でも関わればよいかと考えている。条例が制定されれば、おそらく恩恵を受ける立場にある団体だと思っている。ただ、プロと違って演奏はうまくなく一流ではないが、三流といわれると腹が立つような団体だ。ここでどのような意見を出せるのか悩んでいる。

個人としては、八尾フィルハーモニー交響楽団を離れると、ホールスタッフや芸術系の専門学校講師などしており、皆さんが経験されていないことをしており、プロになるための知識もある。プロでなく、アマチュアプレイヤーの一番の利点は、最高の聴衆であることだ。一般の方ではわからないことを理解できる耳を持っている方が多いと思う。そうしたことを発言できればと思う。

会長○大変ユニークな考察だ。一番うるさい批評家という視点で参加していただきたい。
N委員○4年半、観光協会で八尾市の営業マンとして仕事をしている。前職の34年間は営業、プロモーションのみで、芸術文化には関わりがなかった。この仕事に就いてから、プリズムホールの館長にお誘いいただき、イベントを見学させていただいたが、鳥肌が立ち、涙が出た。涙の意味について興味を持ち調べたところ、心のエンジンであり、人が前に進むために必要なのだと、最近わかった。これを機会に人生120年といわれ、まだ60年近くあるため、しっかりやっていきたい。

今後の取組としては、芸術文化の振興が観光振興にも置き換えられると思っている。大阪万博への関心の低さは問題であり、そういった意味でも、芸術文化の振興が関西・大阪万博の振興・発展に我々が絡んでいく糧になると考えている。

会長○私も今の大学が芸術文化観光専門職大学であり、芸術文化観光学を打ち立てたい。いい言葉がたくさん出てきた。芸術文化は心のビタミンだ、ワクチンだ、エンジンだとも言われる。そういう立場から力を尽くしたい。

会長○本来は「八尾の芸術文化についてどう思うか」を話してもらったところだったが、時間となった。

10. その他

事務局より事務連絡
文化振興事業団から配布物の配布

事業団○現在、プリズムホールは1年4カ月の改修休館に入っているが、何もしていないわけではなく、休館中も芸術文化をお届けすることを予定している。主にプリズムホール以外の場所で、アウトリーチを中心に実施し、コロナ禍で実施が難しい状況ではあるが、芸術文化で学校訪問ということで全校を対象に行う予定だ。また、ホームページで動画配信もっており、ご鑑賞いただきたい。

11. 閉会

(以上)